

### ここはお仕事情報の港です 松戸市シルバー人材センター31周年へ出航!! ~未来への変革2024 これからの松戸シルバーへ~



松戸市シルバー人材センターとは?

◀出番を主眼にしつつ居場所を作る会▶

松戸市はつらつクラブ連合会とは?

◀居場所を主眼にしつつ出番を作る会▶

#### 時代に歩調を合わせたシルバー改革

キーワードは **居場所** と **出番**

**共通理念**…人生100年時代!いつまでも元気で、生活を豊かに、生きがいをもち、社会貢献したい!  
居場所と出番の実現へ向けて、互いに補い合って共働歩調!

立ち上げ、「未来への変革2024」をモットーに、これからのシルバー活動の在り方について様々な議論を重ね、時代に適合した体制づくりを目指して各種改善を進めてまいりました。その締めくくりに、とりわけ画期的なことが実現しました。高齢者の「居場所と出番」を求めて同じ道を歩む当シルバー人材センターと「松戸市はつらつクラブ連合会」との提携が、白鳥ひさじ連合会会長の深いご厚情により成立したことです。この提携には松戸市からも大きな賛意と支援を表明していただきました。これによりシルバー2069人の会員と、はつらつクラブ連合会6300人の会員が、様々な場面で力を合わせ、共に活動し、楽しみを分かち合い、社会貢献を果たしていく大きな「輪(和)」を築くことになりました。時あたかも令和6年桜の刻、ともに咲いた松戸市高齢者の団結の花を、今から始まるシルバー31周年はもとより、人生100年時代の未来を見据えて咲かせ続けていくことを念願しております。



理事長 石井 久雄

出航にあたって

高齢化社会の本格化を迎えて、当シルバー人材センターの運営も容易でない状況を迎えています。そこでセンターでは昨年11月よりプロジェクト会議を

### 令和5年度のふりかえり集♪

11月28日

#### ちいきのつどい

女性部会主催の「ちいきのつどい」に、千葉大学生3名の参加が実現した。令和5年3月稔台での初開催が好評を博したので、2回目は松戸市民劇場に場所を移し規模を拡大しての開催となった。フレイル予防講座は大成功。壇上の巧みな誘導に会場は手足を振り回し、口を動かしての大賑わいとなった。後半はじゃんけんゲームに続いてお待ちかねのミニコンサート。人声に代わって音楽が会場に満ち溢れる。2時間余りのイベントは盛会のうちに幕を閉じた。





# シルバー ダイアリー

本年3月、松戸シルバー30周年の掉尾をかざるイベントが大きな反響を呼んだ。昨年11月の第2回「ちいきのつどい」は千葉大の学生諸君が初参加して盛大に花を添え、予想外に大勢の市民の共感を集めたが、年を越えて3月早々の春まつりイベントは、これまた誰もが驚愕するほどの成果を挙げた。

## みんなの春まつり in テクノ21

予想を凌駕したにぎわいに！

「いや驚いた!」「これほど人が集まるとは!」主催者も驚くほどの親子連れで賑わいを見せたのは、奇跡的に晴れ上がった3月2日のテクノ21の広場だった。「見て・食べて・遊んで・楽しむ」三世代交流の場」と銘打って初めて開催した「みんなの春まつり」。まずは来場者数を紹介しよう。なんと1627人の市民が広い会場の内外を所狭しと遊び回ったのである。余りの多さに主催者側は目を白黒てんでこまい。この盛況は女性部会を中心とした主催者側の準備が並みのものでなかった証拠だろう。

外会場にはキッチンカーが並び、綿あめなど次々に手が伸び、獲物を口に運ぶ。体験コーナーには消防車が出動、はしご車が子供たちを高々と空へ舞い上げた。遊びコーナーは子供たちが取り巻いて、山のように用意したヨーヨーなどあつという間に品切れになる番狂わせ、係のおじさんがごめんごめんとなだめる風景もご愛敬。



屋内に目を転ずると、よくもこれほど集めたと思うほどの多彩なワークショップが所狭しと並び目移りするほど。こども発明クラブに遊び、輪投げに興ずる子供の輝く目、多彩な手づくり小物やアクセサリなど見て回る母親たちの解放感、様々な意味で楽しさのオンパレードだった。その最後を飾ったのは友情出演の外と内での二つの音楽集団。皆を歌わせ、楽器演奏で人々の逸った心を鎮ませ、特段のトラブルもなく万事終了となった。

素晴らしい春の一日、市民への贈り物としてのイベントは、また我がシルバー人材センターにとって、協賛の松戸市はつらつクラブ連合会、小金および小金原高齢者生き生きセンターとの連携の実現によって得たその経験と自信は大きな宝となった。





# バス旅日帰りツアー!!

再開旅行に心弾んで!



“♪汽車の窓からハンカチ振れば 牧場の乙女が花束投げる”…そんな50年も前の流行歌が思わず口から飛び出すようなバス旅が、そのころ乙女や若者だった参加者たちを乗せて春らんまんの房総路を快走した。

前日まですぐれなかった天候がなぜかこの日だけ快晴の3月21日、待望の日帰りツアーが何年振りかで再開された。参加者これまた予想外の38名を数え、バス1台にちょうど収まって心地好いことこの上ない。

8時30分、松戸市民劇場を出発。添乗員の長船慎太郎さんがこれまた饒舌。さすがに沿線知識は豊富で話はどうも乗客を飽きさせない。みんな気の合う仲間と陣取ったり、初顔の人と隣り合わせたり、女性職員手作りのこまごま心のこもった案内パンフを手に話し弾む人あり、プシュッと缶の開く音がしたりで、バスの中は多様な楽しさが横溢している。

バスは首都高を走ってアクアラインへ。海ほたるPAで休憩。展望施設へ出ると快晴だが風が非常につよい。そのせいで東京湾の遠望はすっきり冴えわたっている。筆者は

「春はやて 一望千里といふ果報 ありま茜」と詠んだ。館山道を通って富浦の割烹旅館(福喜庵)にて一同地魚定食を喰らう。旨い。さすが新鮮な魚はいい。

道の駅・ちくら潮風王国では、その名のごとく風の強さはおさまらず。だが風こそ季節の贈り物とばかりショッピングやお花畑の散策に皆さん余念がない。帰りも館山道を通って君津の四季の蔵で休憩。さあそのあとのバスの中はカラオケの時間。みなさんお得意のナツメ口をご披露におよぶ。突然昔馴染んだ前奏が流れ出し、筆者にマイクが渡された。「白樺ア あお空…」と思わず歌いだしていた。前の職場で宴会というと「おい、しらかば、白樺ッ」と皆面白がって必ずこの歌を筆者に押し付けてきた。歌いながらすっかり自分の歌になっているのに苦笑した。一句が浮んだ。「啓蟄や マイク飛び交ふバス旅行 ありま茜<sup>けいちつ</sup>」。啓蟄とは春になって虫が土から這い出す様子。われらのバス旅行は久しぶりに這い出した虫のごとく、道中、内も外も新鮮な空気を浴び、吸い、また吐き出して、血をすっかり入れ替えたような旅になった。道路が混んで帰着は1時間以上遅れて夜になったが、誰にも不平の色はない。「またやろう、やりたい」の声をたくさん残して解散した。帰宅後の夕食はさっそく房総名物魚の干物を軽く炙って…余計な詮索はやめよう。バス旅行、楽しかった!!!と言えればそれで十分だ。





## 3階親子DE広場にて イースターイベントボランティア

『イースター』イベントに参加して

地域班2班 山本博之

4月18日、シニア交流センター3階で、『親子DE広場』主催の『イースター』イベントが開催され、地域班2班の佐藤武雄会員と山本の2人で参加しました。

『親子DE広場』とは、0歳児から3歳の乳幼児とその保護者が気軽に集える場です。

今回『イースター』イベントの企画に参加された家族は20組。『イースター』とは十字架にかけられて亡くなったキリストが、その3日目に復活したことを祝う『復活祭』です。

私と佐藤さんは兎の面をかぶり拍手に迎えられながら会場に入場。唄

に併せて踊ったり、イースターエッグの紙芝居を観たり、卵探しゲームと一緒に楽しみました。卵探しゲームでは子供たちが元気に動き回り対応に忙しかったです。イースターエッグとは硬い殻を破って鳥などが生まれる力強さ、兎は多産であることから復活の生命の象徴とされているお祭りだそうです。

全員での記念撮影に参加し、又希望者のお母さんと乳幼児との個別の写真撮影も行い、拍手に送られ無事役目を終え退場しました。次回は12月のクリスマス会、再開を約束してその場を後にしました。



## 編集後記

会報「はつらつ松戸通信」No.75(令6.6刊)をお届けします。ご覧の通り本号6月号は「はつらつクラブ連合会」さんのご厚意で共同刊行の体裁をとっており、今後毎年6月号のみこの体裁でお送りします。次の8月号からは偶数月刊行で、薄い2ページの会報と変わります。これは懸案だった仕事情報やイベント情報発信の充実化、スピード化を促進するための改革です。

話変わって今、当シルバー人材センターの改革がどういう構想で進行しているかを整理してみた。例えば、利潤の追求について考える。利益を上げようとするのは働く者の欲求だが、公益法人ではこれをストレートに「儲け」として積み上げることが出来ない組織上の制約がある。そのため儲けた利潤をどう活用するか、その方向を考える必要がある。それには3つの方向が考えられるだろう。①の方向＝働く者への直接還元…仕事(業種)の拡大によって働けば働くだけ本人に還元されるという方向②の方向＝組織を通して間接的に働き手に還元…利益を組織全体で楽し

むために活用する方向。社会参加や健康増進などもある③の方向＝地域(企業)を巻き込んだ広域的還元…地域的イベントの計画実行。既に「地域のつどい」や「3世代交流の場」の実践として活用されている。これからは賛助会員(個人やサポート企業)の見直しによって拡大を図るのもセンター活動の大きな場面となるだろう。シルバーの活動をこのように考えることで、高齢者の居場所と出番の獲得・拡大が図られ、その内容の整備・充実が図られ、高齢者の現役性(社会に役立つシルバー)が一層高められる。すなわち社会貢献の喜びが生きる喜びとなり、健康増進につながり、フレイルの回避につながり、長寿社会の安定につながってゆく。こうしてシルバー活動による利潤は個人の幸福はもとより、高齢化社会への対応にまで大きな役割を果たすことになる。以上はあくまで筆者個人の考えです。シルバーの皆さん、お元気で。

(以上、本号P.16～19責任編集 山崎修平)

公益社団法人 松戸市シルバー人材センター

〒271-0043 松戸市旭町1-174

Tel 047-330-5005 Fax 330-5008

(会員数 男性1541人・女性503人 計2044人 令和6年3月末現在)

